

Interview
No. 4
片塩商店街
おかげさまの心で

お年寄りに優しく 元気になる商店街



空き地を公園として整備、憩いの場に

近鉄高田市駅の北側にある「高田市駅前商店街」「サンサン中通り」「かたしお遊とおり」「片塩コスモス通り」の4つの通りからなる片塩商店街。「お年寄りに優しく、元気になる商店街」づくりを推進しています。空き地をミニ公園として整備し、地域住民が通った旧片塩小学校にあった藤棚を復元、地域住民はもちろんのこと買い物客らの憩いの場として親しまれています。

地域に根付いた商店街

片塩商店街は昭和4年(1929年)、大阪鉄道の古市～久米寺間が開通し、高田町駅(現在の近鉄高田市駅)ができてから、駅前の商店街として発展しました。この辺りでは古くから紡績業が盛んで、紡績工場も建設されたことから多くの工場労働者にご利用いただき、また、昭和50年前後には2件の総合スーパーが商店街に隣接して開店するなど、中南和の商業地として多くの人でにぎわいました。現在はかつてほどのにぎわいはないものの、形を変えながら地域に根付いた商店街となっています。4つの商店街がバラバラにまちづくりをするのではなく連携していこうと片塩振興協議会

を立ち上げ、「お年寄りに優しく、元気になる商店街」の実現を目指し、片塩カルチャーセンターの設置や、おかげ祭り・片塩楽市・毎週水曜楽の市といったイベント事業など、にぎわい創出に向けた様々な取組を地域団体と連携し実施しています。



片塩振興協議会
西田 陽昭 副会長

平成27年(2015年)に近畿経済産業局から「イケテル商店街」、翌28年(2016年)には経済産業省から「全国はばたく商店街30選」にも選ばれました。

買い物客の憩いの場創出

さまざまな取り組みを進める中で、大和高田市が平成28～30年の3年間、地方創生推進事業として商店街を補助していただき、その1つとして平成29年(2017年)にミニ公園を整備しました。公園敷地はかつて、いくつかの商店がマーケット(棟割り長屋)のように並んでいましたが、20年ほど前にその辺り一帯で火災があり、新しい店舗に生まれ変わりました。ですが土地の一角が残り、放置するのではなく何か活用できないかと当時の商店街会長が購入されました。会長はまちづくりにとても熱心な方で、空き店舗や空き地対策に懸命に取り組まれました。その土地を「商店街で使っていよいよ」と言っていただき、活用を検討した結果、商店街に来ていただける方の憩いの場にしようということになり、ミニ公園として整備しました。会長のご尽力のおかげで、今の商店街は、物を売るだけでなく、憩いの場やコミュニティの場としての役割も果たしています。



また、公園にする上で、何か植物を植えたほうがいいということで、一般に公募させていただき、協議会役員でもある松本敬子さんのアイデアで旧片塩小学校の校庭にあった藤棚を復元しようということになりました。藤棚を作ったことで日陰になったこともあり、テーブルやベンチも設置し、普段の買い物途中の休憩スペースとして親しまれています。

4月のおかげ祭りの頃は、ちょうど藤の開花時期とも重なります。ミニ公園では金魚すくいやスーパースクールすくいといったイベントも祭りに合わせ実施しており、多くの子どもたちを楽しんでもらっています。公園の管理、藤の剪定などは協議会が担っていますが、近隣にお住まいの方も掃除をしていただいています。これからも商店街だけでなく近隣にお住まいの方の憩いの場として親しんでいただける公園にしていきたいと思っています。



ミニ公園に休憩所を設置すると聞いたときに、かつて片塩小学校の校庭に藤棚があり、そこに子どもたちが集っていたことを思い出し、地域のお年寄りの方々に懐かしく感じてもらえるのではと藤棚の復元を提案しました。平成29年(2017年)に藤棚を作りましたがその春には間に合わず、次の年は花が1つだけでしたが、3年目からは満開の花を咲かせています。大和高田市といえば、大中公園の千本桜が有名ですが、商店街の藤も多くの人に見に来ていただければと思います。世界遺産・春日大社(奈良市)の砂ずりの藤ならぬ「片塩の砂ずりの藤」を目指し、大切に育てていきます。



片塩振興協議会役員
松本 敬子さん